

# 特別支援学校における保護者の意向を踏まえた 教育課程編成に関する基礎研究 —特別支援学校学習指導要領解説ならびに 特別支援学校学部教育目標の分析—

岐阜県立可茂特別支援学校 古田 康子  
教職実践開発専攻 坂本 裕  
岐阜県立大垣特別支援学校 日比 暁

## I. はじめに

わが国の学校教育において、21世紀を迎えるに当たり、より一層地域に開かれた学校とすべく、保護者や地域住民の意向を把握し、その協力を得て学校運営を展開することが重要とされた。(中央教育審議会、1998)。そうした斯界の動きは2006年改正教育基本法において、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力として明文化されている。

障害のある児童生徒の保護者がもつ学校教育への意向に関する先行研究としては、小学校知的障害特殊学級在籍児童の保護者への質問紙調査(西・緒方・坂本、2002)、就学前の障害幼児の保護者への質問紙調査(坂本・松本・小石、2003)がある。しかし、特別支援学校在籍児童生徒の保護者を対象とし、特別支援学校教育への意向を調査した研究はない。

本稿においては、障害のある児童生徒の保護者の特別支援学校教育への意向に関する研究を進めるに当たり、その基礎資料となる①特別支援学校学習指導要領解説における保護者の意向に関する記述、②特別支援学校の教育目標や教育の重点における児童生徒の育ちの視点について検討を行った結果を報告する。

## II. 方法

### 1. 課題 I : 特別支援学校学習指導要領解説における保護者の意向に関する記述

#### (1) 調査対象資料

- 昭和37年版養護学校学習指導要領解説、昭和39年版盲学校・聾学校学習指導要領解説
  - ・養護学校小学部、中学部学習指導要領肢体不自由編解説(1965)
  - ・養護学校小学部、中学部学習指導要領病弱教育編解説(1965)
  - ・養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編解説(1966)
  - ・盲学校学習指導要領小学部編解説(1964)
  - ・聾学校学習指導要領小学部編解説(1964)
- 昭和45年版盲学校・聾学校・養護学校学習指導要領解説
  - ・盲学校学習指導要領解説(1974)
  - ・聾学校学習指導要領解説(1974)
  - ・養護学校(精神薄弱教育)学習指導要領解説(1974)
  - ・養護学校(肢体不自由教育)学習指導要領解説(1974)
  - ・養護学校(病弱教育)学習指導要領解説(1974)
- 昭和55年版特殊教育諸学校学習指導要領解説

- ・特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 盲学校編 - (1983)
  - ・特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 聾学校編 - (1983)
  - ・特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 養護学校 (精神薄弱教育) 編 - (1983)
  - ・特殊教育諸学校小学部・中学部学習指導要領解説 - 養護学校 (肢体不自由教育) 編 - (1983)
  - ・特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 養護学校 (病弱教育) 編 - (1983)
  - 平成元年版特殊教育諸学校学習指導要領解説
    - ・特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 盲学校編 - (1992)
    - ・特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 聾学校編 - (1992)
    - ・特殊教育諸学校小学部・中学部学習指導要領解説 - 養護学校 (精神薄弱教育) 編 - (1991)
    - ・特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 養護学校 (肢体不自由教育) 編 - (1992)
    - ・特殊教育諸学校学習指導要領解説 - 養護学校 (病弱教育) 編 - (1992)
  - 平成10年版盲学校, 聾学校及び養護学校学習指導要領解説
    - ・盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領 (平成11年3月) 解説 - 総則編 - (2000)
- <平成21年版特別支援学校学習指導要領解説>
- ・特別支援学校学習指導要領解説総則編 (2009)

(2) 調査時期

2013年12月～2014年1月

(3) 調査手続き

調査対象とした各学習指導要領解説の保護者の意向に関する記述箇所を蒐集した。

(4) 分析方法

各学習指導要領解説の保護者の意向に関する記述箇所を発行年順に分類整理した。

## 2 課題Ⅱ：特別支援学校の学部教育目標や学部教育の重点における児童生徒の育ちの観点

(1) 調査対象資料

岐阜県立特別支援学校17校、及び、熊本県立特別支援学校16校の平成25年度教育課程に関する資料

(2) 調査時期

2013年12月～2014年1月

(3) 調査手続き

調査対象資料に掲載されている各特別支援学校の学部教育目標や学部教育の重点における児童生徒の育ちに関する記述箇所を蒐集した。

(4) 分析方法

各特別支援学校の学部教育目標や学部教育の重点における児童生徒の育ちに関する記述をテキストマイニングを行い、重要ワードを抽出し、その結果を2値データ化する。統計解析にはSPSS Text Analytics for Surveys4.0を用いる。

## Ⅲ. 結果と考察

### 1 課題Ⅰ：特別支援学校学習指導要領解説における保護者の意向に関する記述

(1) 結果

学習指導要領解説において保護者の意向に関する記述としては教育課程編成に関するものと教育活動展開に関するものがあつた。教育課程編成に関する保護者の意向についての記述としては、Table1のように、平成10年版解説からであつた。そして、教育活動展開に関する保護者の意向についての記述としては、Table2のように、昭和45年版解説からであつた。なお、昭和37年版解説、昭和39年版解説には保護者の意向に関する記述はなかつた。

Table 1 教育課程編成における保護者の意向についての記述

<p><b>平成10年版</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成のための事前の研究や調査をする。(中略) 児童生徒の障害の状態及び発達の段階等並びに地域や学校の実態を把握する。その際、<u>保護者や地域住民の意向</u>、児童生徒の状況等を<u>把握</u>することに留意する。(総則編：P129、L21)</li> </ul> <p><b>平成21年版</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成のための事前の研究や調査をする。(中略) 児童生徒の障害の状態及び発達の段階等並びに地域や学校の実態を把握する。その際、<u>保護者や地域住民の意向</u>、児童生徒の状況等を<u>把握</u>することに留意する。(総則編；幼稚園・小学部・中学部編：P128、L26、高等部：P25、L5)</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注) 強調、下線は筆者が行った。

Table 2 教育活動展開における保護者の意向についての記述

<p><b>昭和45年版</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なお、学校における教育活動が学校教育の目標に沿って一層円滑、効果的に実施されるためには、学校と<u>家庭、医療機関及び地域社会との連携</u>を保つことが重要である。(盲学校：P19、L15) (聾学校：P19、L1) (精神薄弱教育：P17、L24) (肢体不自由教育：P19、L22) (病弱教育：P19、L17) 特に、児童、生徒の学習指導、健康指導、道徳指導、進路指導、余暇指導、安全指導などについては、<u>家庭、医療機関及び地域社会に対し学校教育の教育方針についての理解を求め、その徹底を図る</u>上から、また、<u>家庭、医療機関等及び地域社会からの要望</u>にこたえる上からも、<u>その積極的な連携</u>が望まれる。そのためには、<u>家庭、医療機関等及び、地域社会の実態を把握</u>して、資料を整備し、それらを積極的に活用することが大切である。(盲学校：P19、L15) (聾学校：P19、L1) (精神薄弱教育：P17、L24) (肢体不自由教育：P19、L22) (病弱教育：P19、L17)</li> </ul> <p><b>昭和54年版</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なお、学校における教育活動が学校教育の目標に沿って一層円滑、効果的に実施されるためには、学校と<u>家庭、児童福祉施設、医療機関等及び地域社会との連携</u>を保つことが重要である。そのために、<u>これらの実態を十分把握</u>するとともに、<u>学校の教育方針について理解を求め</u>るなど、<u>積極的に連携を図っていく体制づくり</u>が望まれる。(盲学校：P19、L21) (聾学校：P33、L22)</li> <li>・学校における教育活動が学校の教育目標に沿って一層効果的に展開されるためには、<u>家庭、施設及び地域社会等と学校との連携を密に</u>することが必要である。なお、教育課程の編成、実施及び改善については、地域や施設等と学校との連絡会、<u>父母会などで相互の意思の疎通</u>を十分に図っていくことが大切である。(精神薄弱教育：P25、L1)</li> </ul> <p><b>平成元年版</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における教育活動が円滑に、また、効果的に展開されるためには、学校と<u>家庭と地域社会との連携を密にし</u>、学校が<u>家庭や地域社会からの要望に</u>応えていくとともに、学校の教育方針について<u>家庭や地域社会の理解を深め、協力を得る</u>ことが大切である。(盲学校編：P36、L4) (聾学校編：P36、L4) (精神薄弱教育編：P38、L23) (肢体不自由教育編：P37、L20) (病弱教育編：P40、L21)</li> <li>・学校が適切な教育活動を進めるためには、学校は地域社会に開かれ、共に歩んでいく姿勢をもつことが必要である。また、学校の教育活動について地域の人の理解や協力を求めたり、<u>家庭や地域社会の学校運営等に対する建設的な意見に耳を傾けたり</u>することについても考慮する必要がある。(盲学校編：P81、L10) (聾学校編：P81、L11) (精神薄弱教育編：P86、L17) (肢体不自由教育編：P84、L21) (病弱教育編：P93、L16)</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 平成10年版

- ・学校においては、教育方針や特色ある教育活動などについて保護者や地域の人々に説明するとともに、児童生徒の興味・関心や期待、保護者や地域の人々の意向や建設的な意見などを十分把握することが大切である。(総則編：P127、L19)
- ・学校における教育活動が学校の教育目標に沿って一層効果的に展開されるためには、家庭や地域社会と学校との連携を密にすることが必要である。すなわち、学校の教育方針や特色ある教育活動の取組、児童生徒の状況などを家庭や地域社会に説明し、理解を求め協力を得ること、学校が家庭や地域社会からの要望にこたえていくことが大切であり、このような観点から、その積極的な連携を図り、相互の意思疎通を図って、それを教育課程の編成、実施に生かしていくことが大切である。(盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領解説総則編幼稚園・小学部・中学部・高等部：P141、L24)
- ・また、各学校の教育方針や特色ある教育活動、児童生徒の状況などについて家庭や地域の人々に説明し理解や協力を求めたり、家庭や地域の人々の学校運営などに対する意見を的確に把握し、自校の教育活動に生かしたりすることが大切である。(総則編：P202、L28)

#### 平成21年版

- ・学校においては、教育方針や特色ある教育活動などについて保護者や地域の人々に説明するとともに、児童生徒の興味・関心や期待、保護者や地域の人々の意向や建設的な意見などを十分把握することが大切である。(総則編；幼稚園・小学部・中学部 P126、L15、高等部編：P23、L13)
- ・学校における教育活動が学校の教育目標に沿って一層効果的に展開されるためには、家庭や地域社会と学校との連携を密にすることが必要である。すなわち、学校の教育方針や特色ある教育活動の取組、児童生徒の状況などを家庭や地域社会に説明し、理解を求め協力を得ること、学校が家庭や地域社会からの要望にこたえていくことが大切であり、このような観点から、その積極的な連携を図り、相互の意思疎通を図って、それを教育課程の編成、実施に生かしていくことが大切である。(総則編；幼稚園・小学部・中学部：P143、L24、高等部編：P39、L35)
- ・また、各学校の教育方針や特色ある教育活動、児童生徒の状況などについて家庭や地域の人々に説明し理解や協力を求めたり、家庭や地域の人々の学校運営などに対する意見を的確に把握し、自校の教育活動に生かしたりすることが大切である。(総則編；幼稚園・小学部・中学部編：P184、L20、高等部編：P110、L18)

注) 強調、下線は筆者が行った。

#### (2) 考察

特別支援学校学習指導要領解説における保護者の意向に関する記述は、Table1・2に示したように、教育活動展開に関しては昭和45年版解説以降であり、教育課程編成に関しては平成10年版以降であった。つまり、特別支援学校において、日々の教育活動の展開に保護者の意向を求める営みは50年以上に渡ってなされてきているものの、教育課程編成に保護者の意向を求めようとするようになったのは10有余年しかない状況にある。こうした状況の背景には、中央教育審議会(1998)がより一層地域に開かれた学校づくりを推進すべく、保護者や地域住民の意向を把握し、その協力を得て学校運営を展開していくといった方向性を示したことの影響もあるものと考えられる。

また、昭和45年版以降に示されている教育活動展開に関する保護者の意向の記述において、保護者は『要望にこたえていく』対象とされているが、その捉えは大きく変化している。昭和45年版解説では『実態把握する』『理解を求め、徹底を図る』対象とされていた。昭和54年版解説でも『実態把握する』『理解を求める』対象ではあったが、『意思の疎通を図る』ことが加味された。平成元年版解説では『理解を深め、協力を得る』対象となり、『建設的な意見に耳を傾ける』対象へと変わった。このような変化には、臨時教育審議会(1987)が学校は地域社会の共有財産であるとの観点から学校・家庭・地域社会の協力を確立するとともに、開かれ



た学校経営に努めることと提唱したような教育行政の動向が反映されているものと考えられる。そして、平成10年版解説及び平成21年版解説では『説明する』対象であり、『意向や建設的な意見を十分把握する』対象であり、『説明し、理解を求め協力を得る』対象、『学校運営などに対する意見を的確に把握する』対象とその捉えが大きく変改した。こうした変化の背景には、上述した中央教育審議会答申（1998）にみられるような保護者や地域住民の意向を把握し、その協力を得て学校運営を展開することが重要であると言った教育行政の方針が強く影響しているものと思われる。

## 2 課題Ⅱ：特別支援学校の教育目標や教育の重点における児童生徒の育ちの観点

### (1) 結果

各特別支援学校の学部教育目標や教育の重点における児童生徒の育ちに関する記述をテキストマイニングした結果、小学部では、他者、生活、健康、学習、心情、主体性、コミュニケーション、社会・職業の7視点が形成された。小学部の7視点の主な内容として、他者は友達と仲良く活動できる、仲間と仲良く遊ぶなどであった。生活は生活のリズム、基本的な生活習慣などであった。健康は健康な体、丈夫な体などであった。学習は基礎的・基本的な学力、学習に必要な言語などであった。心情は優しい心、思いやりなどであった。主体性は生き生きと活動する、自ら意欲的に活動するなどであった。コミュニケーションはコミュニケーション能力、自分の気持ちを伝えるなどであった。

中学部では、他者、生活、健康、学習、心情、主体性、コミュニケーション、社会・職業の8視点が形成された。中学部の8視点の主な内容としては、他者は人とのかかわり、友達と協力するなどであった。生活は基本的な生活習慣、余暇の過ごし方などであった。健康は健康の保持増進、心身ともに健康などであった。学習は基礎的・基本的な学力、確かな学力などであった。心情は責任感、豊かな心などであった。主体性は新しいことに挑戦する、進んで活動に取り組むなどであった。コミュニケーションは自分の意思を表現する、場に応じたコミュニケーションなどであった。社会・職業は社会自立、働く意欲などであった。

高等部では、他者、生活、健康、学習、心情、主体性、コミュニケーション、社会・職業の8視点が形成された。高等部の8視点の主な内容としては、他者は他者とのよりよい関係、友達と協力するなどであった。生活は基本的な生活習慣の確立、身だしなみなどであった。健康は健康の保持増進、体力の向上などであった。学習は基礎的・基本的な知識、家庭生活に必要な知識などであった。心情は健全な心、他人を思いやる心などであった。主体性は主体的に行動する、自己選択・自己決定などであった。コミュニケーションは言葉遣い、場に応じたコミュニケーションなどであった。社会・職業は社会参加・社会自立、働く力などであった。

### (2) 考察

文部科学省（2009,2009）は中学部では『大人の自覚をもち始める時期』、高等部では『大人の自覚』を生徒の捉えの基盤となすようにとしている。今回の学部教育目標、学部の教育重点の分析においても、中学部以降に社会・職業の視点が加わっている。また、小学部・中学部・高等部共通の視点においても、例えば、他者の視点にて、小学部では「仲間と仲良く遊ぶ」、中学部では「友達と協力する」、更に高等部では「他者とのよりよい関係」と変化しているように、学部が進むことに伴う広がり確認できた。

## Ⅳ. 今後の方向性

課題Ⅰの検討結果から、特別支援学校の教育課程編成において、保護者の意向等を十分に把握することが求められるようになったのは平成10年版解説以降であることが明らかになった。課題Ⅱの検討結果から、特別支援学校の学部教育目標や学部教育の重点を分析し、在籍児童生徒の育ちに関する視点が明らかになった。

今後は、障害のある児童生徒の保護者の特別支援学校教育への意向を明らかにすることを喫緊の課題として捉え、特別支援学校学校における保護者の意向を明らかにすることを意図した調査を行う。そして、その結果から特別支援学校の教育課程編成にどのような観点を設けるとよいかを検討していきたい。

## 文献

- ・中央教育審議会（1998）：今後の地方教育行政の在り方について（答申）。
- ・文部科学省（2009）：特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）。教育出版。
- ・文部科学省（2009）：特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部編）。海文堂。
- ・西 正道・緒方 明・坂本 裕（2002）：小学校知的障害特殊学級における保護者と学級担任の連携について（1）。岐阜大学治療教育研究紀要、24、9-17。
- ・臨時教育審議会（1987）：第三次答申。
- ・坂本 裕・松本和久・小石麻利子（2003）：障害のある幼児の保護者の学校教育への期待に関する調査研究（1）。岐阜大学教育学部研究報告、人文科学、52（1）、189-193。